

点  $(0, -1)$  と点  $(0, 1)$  をそれぞれ  $A$  と  $B$  で表す. 直線  $L: y = ax + b$  は点  $A$  を通り, 直線  $L$  と曲線  $C: y = x^2$  は共有点  $D(x_1, y_1)$  と共有点  $E(x_2, y_2)$  をもつ. 三角形  $ABD$  の外接円の面積を  $S_1$  とし, 三角形  $ABE$  の外接円の面積を  $S_2$  とする. また,  $\angle DAB$  の大きさを  $\theta$  で表し,  $0 < x_1 \leq x_2$  とする. 次の各問に答えなさい.

- (1) (i)  $b$  の値を求めなさい.  
 (ii)  $a$  を  $x_1$  の式で表しなさい.  
 (iii)  $a$  の値の範囲を求めなさい.
- (2)  $x_1 = x_2$  とする.  
 (i)  $x_1$  と  $y_1$  の値をそれぞれ求めなさい.  
 (ii) 線分  $AD$  の長さを求めなさい.  
 (iii)  $\tan \theta$  と  $\tan 2\theta$  の値をそれぞれ求めなさい.
- (3)  $x_1 = \frac{1}{2}$  とする.  
 (i)  $y_1, x_2, y_2$  および  $\sin \theta$  の値をそれぞれ求めなさい.  
 (ii) 線分  $BD$  と線分  $BE$  の長さをそれぞれ求めなさい.  
 (iii) 三角形  $ABD$  の外接円の方程式を求めなさい.  
 (iv)  $\log_2 S_2 - \log_2 S_1$  の値を求めなさい.

(19 帯広畜産大 9)

【答】

- (1) (i)  $b = -1$   
 (ii)  $a = \frac{x_1^2 + 1}{x_1}$   
 (iii)  $a \geq 2$
- (2) (i)  $x_1 = 1, y_1 = 1$   
 (ii)  $AD = \sqrt{5}$   
 (iii)  $\tan \theta = \frac{1}{2}, \tan 2\theta = \frac{4}{3}$
- (3) (i)  $y_1 = \frac{1}{4}, x_2 = 2, y_2 = 4, \sin \theta = \frac{2\sqrt{29}}{29}$   
 (ii)  $BD = \frac{\sqrt{13}}{4}, BE = \sqrt{13}$   
 (iii)  $\left(x + \frac{11}{16}\right)^2 + y^2 = \frac{377}{256}$   
 (iv)  $\log_2 S_2 - \log_2 S_1 = 4$

【解答】

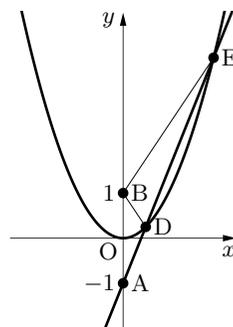
- (1) (i) 直線  $L: y = ax + b$  は点  $A(0, -1)$  を通るから  

$$b = -1 \quad \dots\dots(\text{答})$$
 である.  
 (ii) (i) より  

$$L: y = ax - 1$$
 であり,  $D(x_1, y_1)$  は  $L$  と  $C: y = x^2$  の共有点であるから  

$$ax_1 - 1 = x_1^2$$
 $0 < x_1 \leq x_2$  より  $x_1 \neq 0$  であるから  

$$a = \frac{x_1^2 + 1}{x_1} \quad \dots\dots(\text{答})$$
 である.



- (iii)  $a$  の値の範囲は  $a = \frac{x^2+1}{x}$  が解  $x_1, x_2$  をもち、かつ  $0 < x_1 \leq x_2$  を満たすものが存在するような  $a$  の条件である、これは  $x^2 - ax + 1 = 0$  の 2 解がともに正であるための  $a$  の条件でもある。

$f(x) = x^2 - ax + 1$  とおくと、求める条件は

$$\begin{cases} \text{(判別式)} \geq 0 \\ \text{軸の位置: } \frac{a}{2} > 0 \\ \text{端点の符号: } f(0) > 1 \end{cases} \iff \begin{cases} a^2 - 4 \cdot 1 \geq 0 \\ a > 0 \\ 1 > 0 \text{ (つねに成立)} \end{cases}$$

まとめると

$$\mathbf{a \geq 2} \quad \dots\dots(\text{答})$$

である。

- (ii) の結果と  $x_1 > 0$  より、相加平均と相乗平均の関係を用いると

$$a = \frac{x_1^2+1}{x_1} = x_1 + \frac{1}{x_1} \geq 2\sqrt{x_1 \cdot \frac{1}{x_1}} = 2 \quad (\text{等号は } x_1 = 1 \text{ のとき成立})$$

を得るが、これは  $a$  が  $x_1 = 1$  のとき最小値 2 をとることの証明にはなるが、 $a$  の値の範囲が  $a \geq 2$  であることを主張しているわけではないことに注意せよ。

- $a$  を  $x_1$  の関数とみて、 $x_1 > 0$  でグラフの増減を調べてもよい (数学 III)。

(2)  $x_1 = x_2$  のとき

- (i)  $x_1 = x_2 (> 0)$  となるのは、 $L$  が  $C$  の接線となるときである。

$$ax - 1 = x^2 \quad \text{すなわち } x^2 - ax + 1 = 0$$

が正の重解をもつときであり

$$\begin{cases} \text{判別式: } a^2 - 4 = 0 \\ \text{軸の位置: } \frac{a}{2} > 0 \end{cases} \quad \therefore a = 2$$

のときであり、接点の  $x$  座標は

$$x^2 - 2x + 1 = 0 \quad \therefore (x-1)^2 = 0 \quad \therefore x = 1$$

である。 $(x_1, y_1)$  は接点 D の座標であるから

$$\mathbf{x_1 = 1, y_1 = 1} \quad \dots\dots(\text{答})$$

である。

- $C: y = x^2$  上の点  $(t, t^2)$  ( $t > 0$ ) における接線の方程式は

$$y = 2t(x-t) + t^2 \quad \therefore y = 2tx - t^2$$

であり、これが  $A(0, -1)$  を通るから

$$-1 = 0 - t^2 \quad \therefore t = 1 \quad (\because t > 0)$$

$$\therefore x_1 = 1, y_1 = 1$$

である。

- (ii)  $A(0, -1)$ ,  $D(1, 1)$  より

$$\mathbf{AD = \sqrt{1+2^2} = \sqrt{5}} \quad \dots\dots(\text{答})$$

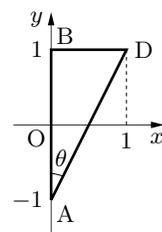
である。

- (iii) このとき、 $B(0, 1)$  より  $\triangle DAB$  は  $\angle ABD = 90^\circ$  の直角三角形であり、 $\angle DAB = \theta$  であるから

$$\tan \theta = \frac{BD}{AB} = \frac{1}{2} \quad \dots\dots(\text{答})$$

$$\tan 2\theta = \frac{2 \tan \theta}{1 - \tan^2 \theta} = \frac{2 \cdot \frac{1}{2}}{1 - \left(\frac{1}{2}\right)^2} = \frac{4}{3} \quad \dots\dots(\text{答})$$

である。



(3)  $x_1 = \frac{1}{2}$  のとき

$$(i) \quad y_1 = x_1^2 = \left(\frac{1}{2}\right)^2 = \frac{1}{4} \quad \dots\dots(\text{答})$$

このとき、 $L$  の傾き  $a$  は

$$a = \frac{x_1^2 + 1}{x_1} = \frac{\left(\frac{1}{2}\right)^2 + 1}{\frac{1}{2}} = \frac{5}{2}$$

であり、直線  $L$  の方程式は

$$y = \frac{5}{2}x - 1$$

となる。

$x_1 \neq 1$  のとき、 $L$  と  $C$  は異なる共有点  $D, E$  をもつ。点  $E(x_2, y_2)$  は  $D\left(\frac{1}{2}, \frac{1}{4}\right)$  と異なる  $L$  と  $C$  の共有点であるから

$$\begin{aligned} \frac{5}{2}x_2 - 1 &= x_2^2 \\ 2x_2^2 - 5x_2 + 2 &= 0 \\ (x_2 - 2)(2x_2 - 1) &= 0 \end{aligned}$$

$x_2 \neq \frac{1}{2}$  であるから

$$x_2 = 2, y_2 = 4 \quad \dots\dots(\text{答})$$

である。よって

$$\sin \theta = \frac{x_2}{AE} = \frac{2}{\sqrt{2^2 + 5^2}} = \frac{2}{\sqrt{29}} = \frac{2\sqrt{29}}{29} \quad \dots\dots(\text{答})$$

である。

(ii)  $B(0, 1), D\left(\frac{1}{2}, \frac{1}{4}\right), E(2, 4)$  から

$$BD = \sqrt{\frac{1}{4} + \frac{9}{16}} = \frac{\sqrt{13}}{4} \quad \dots\dots(\text{答})$$

$$BE = \sqrt{4 + 9} = \sqrt{13} \quad \dots\dots(\text{答})$$

である。

(iii)  $A(0, -1), B(0, 1), D\left(\frac{1}{2}, \frac{1}{4}\right)$  である。

線分  $AB$  の垂直二等分線は  $x$  軸であり、 $\triangle ABD$  の外接円の中心は  $x$  軸上にある。また、 $BD$  の中点が  $\left(\frac{1}{4}, \frac{5}{8}\right)$  であり、直線  $BD$  の傾きが  $\frac{\frac{1}{4} - 1}{\frac{1}{2} - 0} = -\frac{3}{2}$  であるから、線分  $BD$  の垂直二等分線の方程式は

$$y = \frac{2}{3}\left(x - \frac{1}{4}\right) + \frac{5}{8} \quad \therefore y = \frac{2}{3}x + \frac{11}{24}$$

である。この直線と  $x$  軸との交点が外接円の中心  $M$  である。 $M$  の座標は

$$\begin{cases} y = \frac{2}{3}x + \frac{11}{24} \\ y = 0 \end{cases} \quad \therefore (x, y) = \left(-\frac{11}{16}, 0\right)$$

である。外接円の半径  $R_1$  は

$$R_1 = MA = \sqrt{\left(\frac{11}{16}\right)^2 + 1^2} = \frac{\sqrt{377}}{16}$$

であり、外接円の方程式は

$$\left(x + \frac{11}{16}\right)^2 + y^2 = \frac{377}{256} \quad \dots\dots(\text{答})$$

である。

- 外接円の半径  $R_1$  は正弦定理を用いて

$$R_1 = \frac{BD}{2 \sin \theta} = \frac{\frac{\sqrt{13}}{4}}{2 \cdot \frac{2\sqrt{29}}{29}} = \frac{\sqrt{377}}{16}$$

としてもよい.

- $\triangle ABD$  の外接円の方程式を  $x^2 + y^2 + fx + gy + h = 0$  とおくと, 3点  $A(0, -1)$ ,  $B(0, 1)$ ,  $D\left(\frac{1}{2}, \frac{1}{4}\right)$  を通ることから

$$\begin{cases} 1 - g + h = 0 \\ 1 + g + h = 0 \\ \frac{1}{4} + \frac{1}{16} + \frac{1}{2}f + \frac{1}{4}g + h = 0 \end{cases} \quad \therefore g = 0, h = -1, f = \frac{11}{8}$$

よって,  $\triangle ABD$  の外接円の方程式は

$$x^2 + y^2 + \frac{11}{8}x - 1 = 0$$

である.

- (iv)  $\triangle ABE$  の外接円の半径を  $R_2$  とおくと

$$\log_2 S_2 - \log_2 S_1 = \log_2 \frac{S_2}{S_1} = \log_2 \frac{\pi R_2^2}{\pi R_1^2} = \log_2 \left( \frac{R_2}{R_1} \right)^2$$

である. ここで, 正弦定理より

$$\frac{BD}{\sin \theta} = 2R_1, \quad \frac{BE}{\sin \theta} = 2R_2$$

であり

$$\frac{R_2}{R_1} = \frac{BE}{BD} = \frac{\sqrt{13}}{\frac{\sqrt{13}}{4}} = 4$$

であるから

$$\log_2 S_2 - \log_2 S_1 = \log_2 4^2 = \log_2 2^4 = 4 \quad \dots\dots(\text{答})$$

である.